

製品名: TNNI2 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM81069**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	ICC,ELISA,FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	ICC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	21kDa

抗原情報

遺伝子名	TNNI2
別名	DA2B; FSSV; fsTnl; AMCD2B
遺伝子 ID	7136.0
SwissProt ID	P48788
免疫原	大腸菌で発現したヒト TNNI2 の精製された組み換え断片。

背景

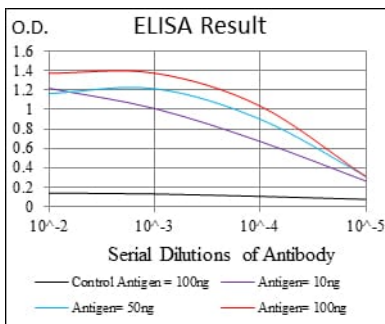
この遺伝子は、トロポニンI遺伝子ファミリーのメンバーであり、トロポニンT、トロポニンC、およびトロポニンIサブユニットを含むトロポニン複合体の成分である速筋骨格タンパク質をコードしています。トロポニン複合体は、トロポミオシンとともに、横紋

筋収縮のカルシウム依存性制御を担っています。マウス研究では、この成分は血管平滑筋にも存在し、平滑筋機能の調節に役割を果たしている可能性があることが示されています。筋肉組織に加えて、このタンパク質は角膜上皮、軟骨（腫瘍の成長と転移を抑制する血管新生阻害剤）、および乳腺（エストロゲン受容体関連受容体 α のコアクチベーターとして機能する）に存在しています。このタンパク質は、ヒト卵巣癌の腫瘍の成長も抑制します。この遺伝子の変異は、ミオパシーおよび遠位性関節拘縮症 2B 型を引き起こします。この遺伝子には選択的スプライシング転写変異体が発見されています。

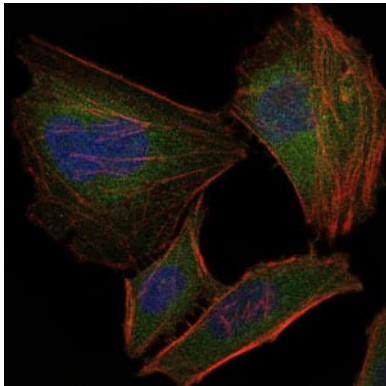
研究分野

-

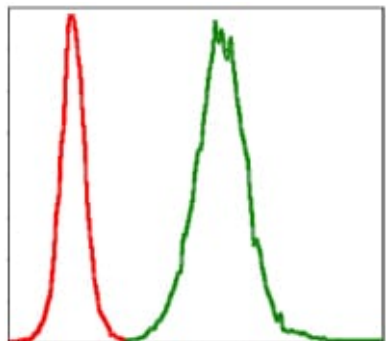
画像データ



黒線: コントロール抗原 (100 ng); 紫線: 抗原 (10 ng); 青線: 抗原 (50 ng); 赤線: 抗原 (100 ng);



TNNI2 マウス mAb (緑) を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。青: DRAQ5 蛍光 DNA 色素。赤: Alexa Fluor-555 ファロイジンで標識されたアクチンフィラメント。



TNNI2 マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した NIH/3T3 細胞のフローサイトメトリー分析。